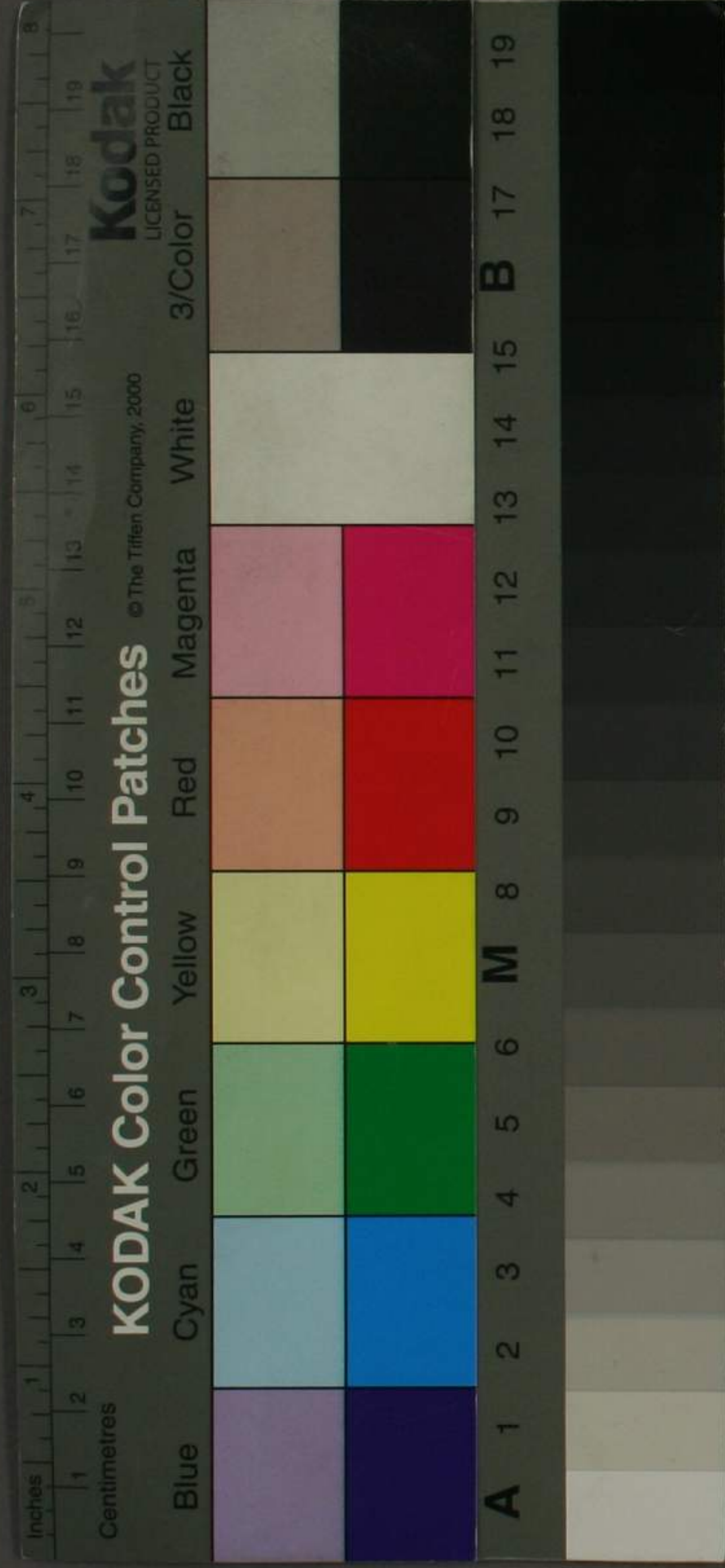
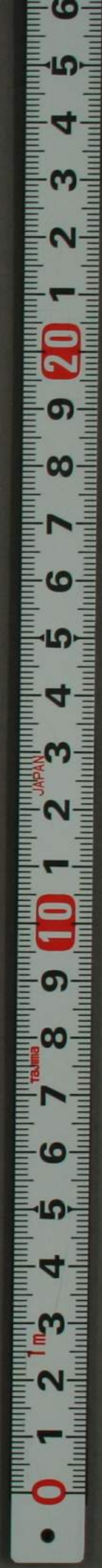


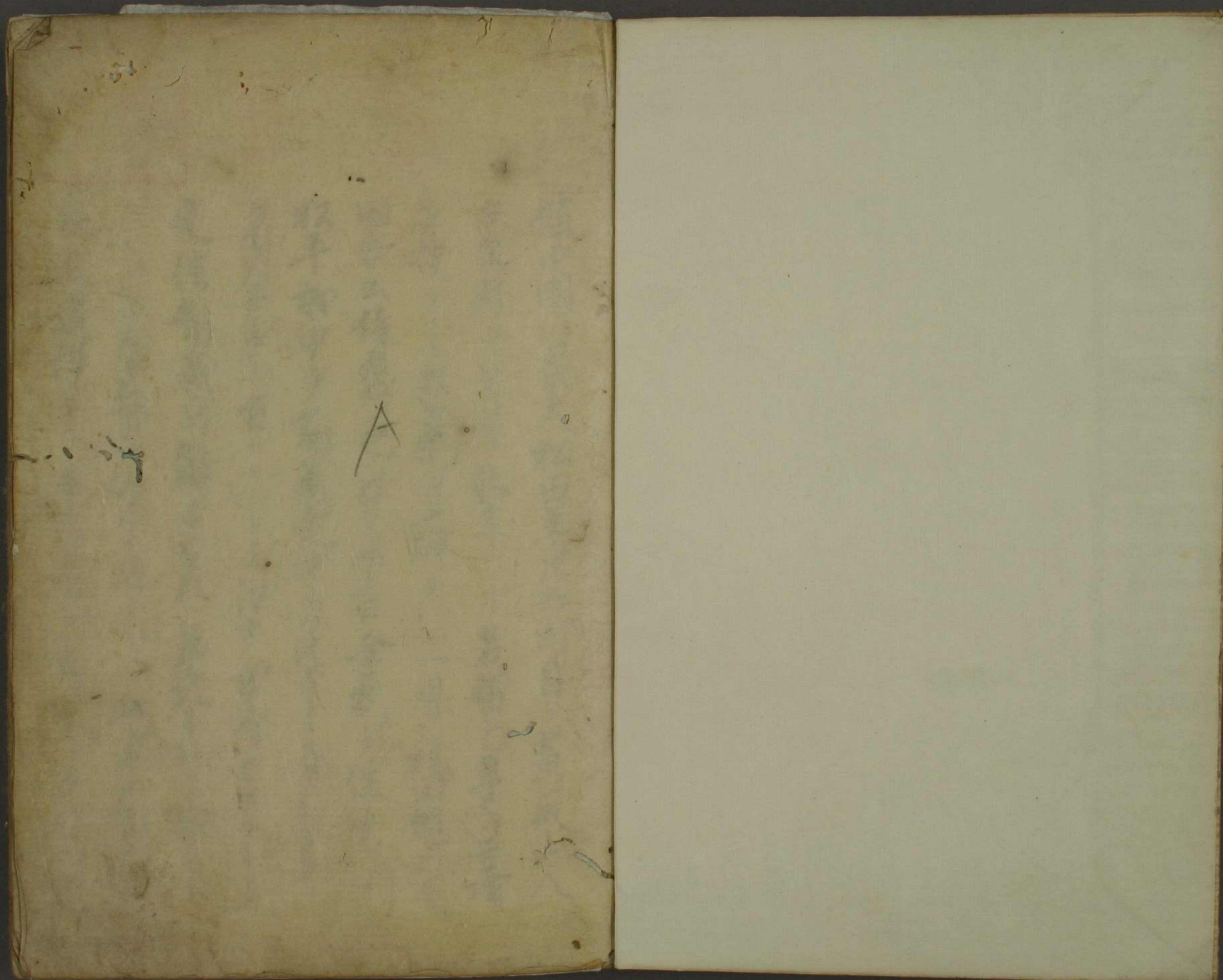


四神地名録

天

特別
凡生
229
1





門
號
卷

三才圖會

卷
第
一

門
號
卷
229
1

備中國の農夫松田平次兵衛自り黃薇山人
古松軒と号す此年より右膳と号す古墳
を搜りて松鷹と號し一月松田魏丹
田安公侍醫也江戸下若金松より便定す
松平初中身菊藏老中の代きなりと云
平次兵衛と云ふは江戸の松鷹と云ふ
定信菊藏代解も此の年改め金と
云ふは江戸の松鷹と云ふは江戸の松鷹と
氏教遠境より平次兵衛と云ふは江戸の松鷹と

此の書は、
古く巡覽といふものなり。其の
うへに編輯し、十冊なり。右に
四神地名録といふ。官に奉
りて、
此の書は、
陽國といふ。平治の折、
右葛母葛母花禪老人、
一書なり。

一書なり。

用齋

四神地名録



河見つちを祀り、
茅出度

河代を祀り、
日由のつちを祀り、
あまのつちを祀り、
天長く地久に
く、此の書は、
四神の地なり。

墨りた氏玉川の流ききくくをみ川
れ流き氏探りて民地を録し其地
筆記と奉し仰も博くその事の誤り
をたのぬ鯉鯢かゝるん事やおもひ
伏あてけりしものなり

于時寛政六のち一復六

黄薇山人古松軒辰謹誌

武藏國

豊嶋郡之記

古松軒草稿

日本惣國凡土記第八十四

武藏國豊嶋郡

名浦ニヶ所岡一ヶ所河ニ流池ニヶ所泉ニヶ所
宮祠九ヶ所寺院七ヶ所墳墓六基

豊嶋郡或祇嶋

東限下谷岡西限箕田
南限藍田川北限向岡

占方或浦方

占方神社端齒別天皇御宇六年戊申

六月所祭大物王神也

隨願寺 慶雲三年丙午依不比等之願而立之

日頭

白鳥神社

白雉二年辛亥五月所祭日本武尊也

德業院 白鳳二年甲戌少僧都義也

江戸 或在土

江戸神社 大室二年壬寅所祭素盞鳴尊也

真如院 和銅元年戊申九月義淵用基之地也

荒世陵 小泊瀬稚鴟鷁天庾辰二月野見

茂臣有復死于茲

湯嶋

湯嶋神社 雄略天皇所宇二年癸丑八月

自宮 所祭大乎乃雄神也

神田 或韓田

下岩岡

篠臨津池

荒墓御

荒墓神社大化二年丙午所祭様田彦也

廣田

箕田

箕田八幡神社

天平六年辛未八月十日自宇佐宮遷御于茲

右ハ古名田邊寺ニ爲ニ振書ス此故ニ全カラス
年アリ今ハ古名知レス

角岩村

六郎山長樂寺ニ早セリ新儀の云云宗子

大猷院様府中六郎明沖ハ訪テ其の還

御のみきりけ寺ハナセ給ヒトてまより

六郎山ニ称セリ一ヶ寺ニ

大猷院様の所真跡ニて古に様あり

掛地一幅室切リ一畝花是所也

多ク一ヶ寺ニ

以一張弓機

定天下

以三尺劍光

安國土

夫偽乃事、知されども、いはずに
伊文章を

伊武將を以て君の治を以て、かくのとき
のやまのふく目もみちみちみちの
ねひもあらむやう——あきい、いまりちるや
なり

伊氣象図の武王もあきけき
感伏——おき——いりちる——

角音村十二所權現之略圖

土人の方言ニ十二双と云ふ

島のもゝ別当國親寺の隠居を稱て橋はくゑの
 家おもふ傍の人ゝは佛を凡衆より兼張とす

池，長一百步，置間
橫五十間，三指間又
戴指間



社傳曰昔紀別より新本九席何
いふ新本とありて中北の字は信をあつていふこと
いふるなりは能成十二社権限成かの宅外
勸誘して信ふ湯作かゝるなりなりけ成
ふやあらん家より来て今根倉子満是と
以て玉氏中北の長者と稱し長者の性質
各さうして今新成かゝるなり成部一奴
僕としてむらふ彼を根と願ひて是にの

幽林人などあへて是に原姓と稱して垣と隠れ
事教回るれを指し一奴僕人よ告知さん
事と名をさういふ海路におうぬはいぬ日と作
楊のりなり切敷とてあふ流をる教人よなり
け成り土俗安あえんの楊と稱し又侍楊とを
いふらん奴僕物成りて信いふ事なり
あつていふなり
正保年中の
信いふ事なり

大君の放鷹のみなり 尚今（？）せしむる

伊の世に長考より跡上開きつてある所の石
うりしは是よりく後楊と稱する一も
鮎帝といふよりい後楊といふことと考へ
隠雲報恩をみずりてその人の名を蛇の
あけわくは長者大いなりと考へて衆臣禪師
と相語して正觀禪女の血脈にうけさせ池文
教巻池に授けむけ故に等彼女佛をい
て上天より安んずるを長者といふを記

して刺髪して正蓮と法名を令根とすけり
今玉郡より多宝正成禪寺を建立し
三所権記の
別あり
則ち其の住持より定比なりと云傳へ
是より玉郡の
物ありと云

上石神井村^{シヤクシ}

龜頂山三寶寺新儀主を宗とて守護不入
乃標本と建より山朱下拾石古跡所也
更て立寄りに焼亡よりて宝地なりと

谷本村と云ふは小田原北条氏康
氏政の書簡より云々住持いふ云々
云々といふ云々いふ云々

同村

三宝寺池と稱せざる凡圖の

三寶寺池といふも三寶寺の池と云ふ
地名は池と井の間の池より小なり

いふも池の西ききひと云ふは
早もあかも減せたる下流の
村く用ありて益ありと云ふ
鯉鱒も多し中にも卯月の
大鰻もといふ大鰻も年々の
あつひと味は佳なり上り
と云ふも井の底より出た
池は三寶寺池水脈也と云ふ

豐嶋郡上石神井村
三空寺池之略圖

此下流、板橋村用水ト
下流、川五子川、陸ヲ
標夫ヨリ豊嶋村
入荒川、原ト

五室寺

开

豐嶋氏之
古城之跡今
烟

池、東西六十余町
南北五十余間、狭不
四十間、東_レ流_レ百
六七十間、池中、
每天、小社有、
風景、

一と戸をわけ名をうけうてうろくうて
 巴方より何より授けしと大いなる
 形出てありと云何と云何と云何と云何と
 の云と云切智といふものよりさきもさき
 より一と云切智と稱せし大馬未だ悍しと
 祖一虚説と云何と云

ト石神井村

土人の方言に云く一村
 といふ

け村は石神の神社と号せし（つひか）僅なる小
 わり神社に石と云神代より此の石神
 名のこゝ



石劔之長サ二尺余 凡サ大サ所ニテ一尺
 色ウス青ク質ス至テカタク重キ事鉄ノ如シ

世に云日本の開闢を天孫七代と神皇
 夫よりとある人等といふに今此臺灣呂

宋帳夷々たるのうに仁義の常より知られ
多々禽獣のうにありて四常たるの尊
勇智多うて海の底より力知る
うに遠のは素馬の尊ハ俊山田力大紀と追居
わうてゆて天の村吏の秘を伝ひし
夫との闘陣は具に不石と製せしもの
今の世に思ひあせるうにたなる風俗
曲玉の類ひより神代の昔よりありて家
園せる云に神代より石田よりたなる
天下の伝説より一僕道江の石亭ぎ隠
せしゆんを由るよりより土人の言
井田より一時地中よりありて村名石
神井村と称せしより一うのうに
定て故より一より一事とく家

菅原村

岩山坊樂院長命を以て稀に具に記さる
上人を——當時とて遠くの世に付村
坊諸某と云——人佛心を教へて記別を以て
に記して年久あまの僧の傳へる式に法
大師の教を以て衆を以て靈仏と爲てり
高野山に建てる所を大衆より寺院と稱はる
さぬの教を以ての如く依て記す佛家の處
に記はるるかたきなりと云ふ

中村

留陽えん南藏院醫王寺真云云と云
存るる中村名平拾遺名八斗余由緒ある
住持。新印と云ふるに記すにち記
年より住職を何と云ふと云ふ
お泉の世より多記を世の流しといふ

相木村

留陽えん南藏院醫王寺真云云と云

本尊某師の靈佛と醍醐帝の御宇純良の
貞宗僧都の安置といふ平河門朝敵より
逆威を振ふ時友原東郷を亡さんといふ
謀ありきなりて病ふるも尚書の某師の
祈しに病忽ち平癒せり東郷乃ちより
こゝ總州より移るは門のそとにあり
凱陣のなほ此の人伽藍を建立てて將門
をせるといふの甲冑といふ所を記し今より
渡り航の如く稱せられ是こそ今も社を建て
鑑大明神と号し航と埋しといふ也と云ふの
如く云ふの大木年より一木とて之を樹
たり夫より後ありて嘉慶寺に建仁年中
の氏江氏惣補所といひ一人再興せり
といふなりともいふ相州佛念寺社の御家の
といふ也なりと云ふ所の賊のありて焼くも永に
頃れ喻傳に曰わくともて寺宇青霞寺なり

青物一丁面よりくかゝる勅尊斤面より
諸佛といふものなり

右の
栴檀と云ふ

庭より右衛門栴と稱するなり一ありこれ
京家の人の右の栴檀といひて
罪よりやけと流すに中絶のなり
栴檀一栴とて右の栴と稱するなり
栴檀一栴とて右の栴と稱するなり
後年に西の栴檀と稱するなり
右の栴檀といふものなり

同所

後大明神と号するなり
堀河とて寛文といふ
せよといふなり
牙出殿のなり
跡より日蓮の本像なり
余はなり

世の流りやあましくみさしぬ世の地へ

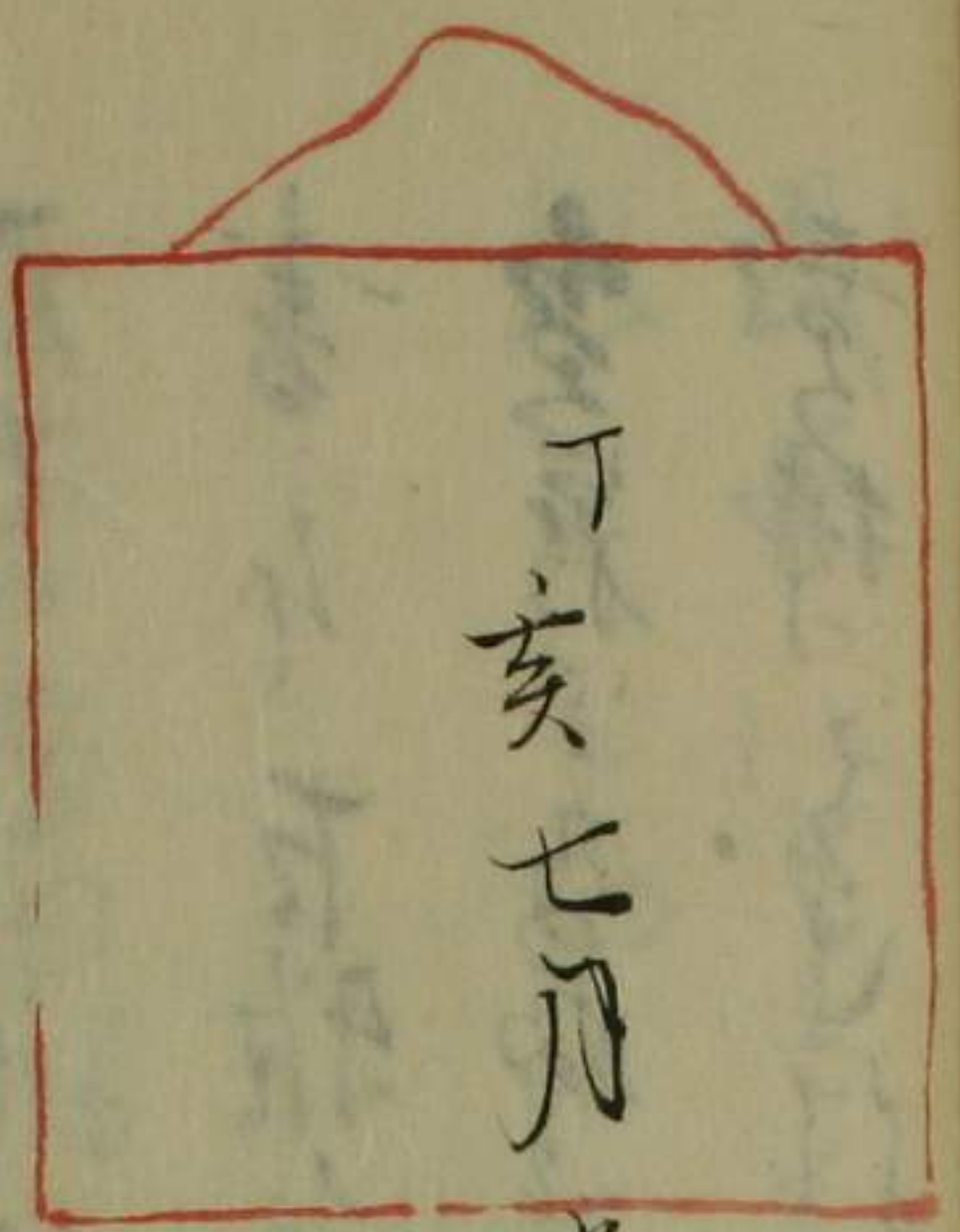


同村

い村も生かるといふ百姓を多かきとて偉なり
 小屋の便所さうさうのうまい田舎北条家の
 住一河本何しといひしものぬれ流し
 古紙渡航きこし陰長刀と取持ちて天正の
 頃の武蔵を殊務さうおりの系おちて
 られさうにうけても世は二つと一つは
 いふ花とつてお然しうふし一花にあり

當りの小代店何時にてもお尋ね可なり
一走り巡りてんお尋ね者侍も凡下
御座りてんお尋ね事

右月曜時、御用へ八月海日
限りて右諸店具に改められ中
其人に交名以下と、来月より侍に
何れも件



丁亥七月晦日 小代店

丁亥大永七年
小田北条明應三年
二死り天正十八年
七十九年也

柳本角
百姓中

朱印右のくく大ひる角判り申の紋

同村

瑠璃山某五院より真云地よりあつた
の他より釈迦如来より城別議議の釈迦
佛より同不同作より日本二佛の釈迦如来
より靈驗のたより住僧の物語より

雅司ヶ谷村

い迎らるる上世の巢鴨のたよりを
古より足にたよりをのこし洋多の鬼子お神



雅司ヶ谷
鬼子お神

五郎寺

鬼子お神

人の知事明く流雲此のすうりしおき

昔時は明く柳下何くもて百世耕作せ

地やとて穿あせ洞佛く何佛をも

うく此古仏故く東陽房と云すの道今の久保院
のうり西寺の

縁記に鬼子母神と云中よりあせ山平氏の百世と云
け所の者も又は柳下氏の者なりとせ

縁記に云く一と云屋敷よりと云くか
故あるものゆゑなりと云くぬ是永保に年

のころよりそ頃と東陽房に房別より客候

のちより一に江右の佛よりとてはたは

る系難より佛より隔り是とて玉を海

一に我も鬼子母神の霊よりそ彼僧より

そつとてあつとそ彼僧のものゆゑんを

武別難司各に歩く所せは清なるん

所せ汝我形の難よりとてはたは

風流の意より一なる家のんせものとも

所せは惜きなりとそ難司各東陽房

送り之に何れとてはたは

おありく狂気のうへへあふ人々
多しは難言な事運りては是より鬼子
母神の像なりそい宗門の徒集落せり
た——今の堂の代は福新明神の小社なり
と述^近ひそそ跡へ鬼子母神堂は建てさせ
お教と打ちせしむりて宗門のものお新あや
しく集落せしむれど他宗のもの懸しそ
群集せしむりて東陽所も福地なり
ふり院と改名し今のうへ鬼子母神
堂とて——建てしものい里人あや
りて根をたぐひ云ふんはとそら
ゆふぬそゆふの地もたぐひはとそら
佛家近世の風俗なり
ふり院の院代ものかきし——い寺主の
以前田利常羽^{加判侯の}のい息女鹿^{内定}別侯へ
入らせし自昌院とせしめ方の内建なり

寺ありふりふりい寺、所ありふりふり小幡動衆
の本儀あり、源近西を称摩長のは三動を信、
て名ありふりふり

法妙寺といふを大引院のなりとて末寺は
古跡所といふなり

上板橋村

武王山安養院といふなり、西明寺將頼
乃建立地といふなり、西明寺將頼
に名ありふりふり、西明寺將頼
や西明寺、西明寺將頼稱せり

下練馬村

如意山金粟院満徳寺、西明寺將頼
拾九石九斗、西明寺將頼宝物焼てなり、
寺ありふりふり、西明寺將頼
何もの寺といふなり、西明寺將頼

同所

い村中ふふふふふふの賜をりて実跡
わがふふふふふふの賜をりて実跡

上練馬村

練馬山光隆院觀音寺ふふふふふふ
若ふふふふふの社所ふふふふふふ
都念山福名の山名ふふふふふふ
運慶の作佛とて觀音を春日といひ佛作の

は川三空寺
此の流をう



里人城山とてふ山とてふ
海老名とてふ山とてふ
右御所とてふ山とてふ
信とてふ山とてふ
くくくくくくくくく
形とてふ山とてふ
右御所とてふ山とてふ
園内とてふ山とてふ
とてふ山とてふ
右御所とてふ山とてふ

此より宝物は焼亡して一品も残らずに寺の火災を
及ぶものなり。ちりもなき物沈みなり。焼亡し
けり。と云ふ處なり。

練馬村より北下りといふみちを余が地を
より。一里大なり。東西に長き南北一里或二里
三丁の所あり。されども畑は頗る少く田方一
分より。是凡そこれに産するもの。是産物
も根を土に深く横に世に尾張大根と稱する
也。是もちひなり。やうあり。味は佳なり。は
地の大根を味ひて。一日ちひなり。大根を
日本第一といふ。さういふ村名と練馬より。の
取調洋々此土人の言傳ふ。む。い。は。是。と
いふ。此。より。さう。言ふ。ま。は。し。は。佳。なり。と
な。此。地。なり。と。一。里。は。一。と。云。は。る。の。浪。土
來りて。宜とあり。休屋を修りて。住なり。と。色。あ
牧場。より。馬。と。過。を。集。ふ。の。誠。堂。と。い。は。れ。又

澤倉討ちて、たの入道武者人をもてせらるる
 て、^{いふ}まにきり、**彼伏屋住兵**の、**藤忠**に、**止り**、**家像**
 も、**ちん**、**同**、**家**、**お**、**水**、**馬**と、**商**、**ま**と、**食**、**か**、**に**
あ、**も**、**留**、**ま**、**し**、**も**、**り**、**し**、**も**、**の**、**く**、**ち**、**り**、**ち**、**地**、**の**、**き**
 所、**の**、**浪**、**人**、**凡**、**来**、**の**、**ち**、**と**、**叫**、**集**、**か**、**一**、**村**、**の**、**用**、**也**
 かり、**も**、**そ**、**の**、**孫**、**あり**、**て**、**此**、**の**、**成**、**る**、**い**、**う**、**の**
 方、**ち**、**は**、**馬**、**の**、**癖**、**を**、**あ**、**と**、**取**、**り**、**と**、**孫**、**も**、**い**、**ひ**、**り**
 方、**ち**、**は**、**解**、**せん**、**右**、**二**、**人**、**の**、**浪**、**士**、**馬**、**と**、**此**、**方**、**へ**、**賣**、**に**
 出、**る**、**お**、**目**、**の**、**教**、**定**、**の**、**馬**、**を**、**時**、**分**、**か**、**一**、**馬**、**と**、**孫**、**を**
 い、**ひ**、**て**、**あ**、**い**、**し**、**し**、**馬**、**の**、**癖**、**を**、**あ**、**せ**、**し**、**し**、**し**、**し**
 い、**し**、**し**、**し**、**し**、**馬**、**を**、**ひ**、**て**、**村**、**若**、**と**、**い**、**け**、**一**、**件**、**を**
 ば、**へ**、**伝**、**し**、**し**、**し**、**し**、**軍**、**人**、**の**、**物**、**也**、**と**、**家**、**の**、**ま**、**を**、**い**、**ふ**、**は**、**し**、**し**

西屋村

西臺山象福寺曹洞派禪宗永平寺藏本

宝物の例の焼失

德凡村

安楽寺とて除地は石何の原より
多き除地を初め

正徳十一年の村く、荒川より江戸田所
 廣大にして民家の多し、た板戸姓の

ト説に
五律なりを同のみとくは
中の方あり
うづりては
因場のよと満色と云
何のみやんと

きしよあるの勝を櫛の肥に至てふに

そのくその海を回のかい
唐鴨板

あつたてゝ冬のふゆの
臍を底より

編作
カ^たの肥を金^たと^たりて福の山生うは

のう僕七十にやひえぬてはしきなり

賤きものゝ百姓間のものを

知さるゝ之をんや

武藏國豐嶋郡之記上卷

四神地名祿

豐嶋郡

二

武藏國豊嶋郡之記下

古松軒草稿

下赤塚村

古比境より華表に赤塚と古比額をかけ
そり故よりん里人に由来と存に
詳々以て鄙る故より事端とあり
ものなる一むけ村と古比取上せり
傳ふ所より新ありの枕よりなるそ大畠を
あり

古城跡ノコトリ
 カラセシモノナリ
 城址ノ葉家云
 時代詳ラス
 今ハ御林ニテ一町
 九反アリト云トモ
 廣ニ頂ニ畑アリ



大聖
 ト云

松月院



名つけて田好ひと称は上世の素式とて扱ふ
を此邦よりあれも古風とて一々もいへ
と足利の事し正月十日百姓大勢十餘数の
社より別当寺常福寺より早けるにむ
て長束の式より初は餅を叩くつくゆと
余々餅といふ衆々たる秋陽馬の今じの鞍
耕師の具たる教ふこしら
柄ノアル具ハニハトコト
云ルヲ以テ制ス
ゆゑに潤う(させ)ぬく立てもいふて

ノミ水とみゆりよとて苗げうらへのま似
と一々といふ人板面とみゆせ鞍とみゆ
縄とみゆと人遠せ鞍とみゆ鹿とみゆ田畑
たもそをまの申とみゆとみゆ八人
秋とみゆと餅の秋とみゆ鹿とみゆ
かみそ田畑とみゆは口々に意と農家の
みゆとみゆとみゆとみゆとみゆとみゆ
みゆとみゆとみゆとみゆとみゆとみゆ
秋とみゆとみゆとみゆとみゆとみゆとみゆ

事なり又膳といひ津海といふとき、安福社
和といふものゝうち、はるばるなりて、ふりて、
るなりけし時八人の秋なり、大いなりけ
やうく、大いなりけ、ふりて、ふりて、
かて稲なりをせといふ、稲なりを刈なり、ふりて、
五万町九万町の稲なり、一万町、はるばる、
去年の稲なりを蔵なり、今年、稲なりを蔵なり、
ふりて、稲なりを蔵なり、ふりて、
増し、ふりて、稲なりを蔵なり、
稲なりを蔵なり、ふりて、
の稲なりを蔵なり、ふりて、
ふりて、稲なりを蔵なり、
稲なりを蔵なり、ふりて、
上りて、稲なりを蔵なり、
の稲なりを蔵なり、ふりて、
稲なりを蔵なり、ふりて、

井田の法は、諸侯の國を分ちて
 田所を定め、願望を大略と稱し、一里を
 小略と云ふ。名田、一里を稱目と
 井田の法なり。

畝	畝	畝
畝	畝	畝
畝	畝	畝

一村一郡一國を分ちて、世刻を以て
 中の一田と云ふ。一里を八田と
 百畝の松田と云ふ。是は公田の法なり。
 一里を八田と云ふ。是は公田の法なり。

井田の法は、諸侯の國を分ちて、
 田所を定め、願望を大略と稱し、
 一里を小略と云ふ。名田、一里を
 稱目と云ふ。井田の法なり。
 一村一郡一國を分ちて、世刻を
 以て中の一田と云ふ。一里を八田
 と云ふ。百畝の松田と云ふ。是は
 公田の法なり。一里を八田と云
 ふ。是は公田の法なり。

云傳ふまゝやわん文武天皇の御宇海門
に玉名庄を則のふけふ凡日本お高
二子二百万石を賜ふそのふりも
市へのふりも後とふりも
傳ふの事………と傳ふわん夫より
山林海濱原野を開發し穀ふる石斗
益ふは其ふりもわん。井田の制を
考へみこし今新縣………聖代の制を
よりも傳ふ………のふりも
作ふ事なり

同訓

大業といふ新田を其人のふりも
大同年中の建ふる市………七段の
地………市………上………下………
地………のふりも市………市………
市………市………市………市………

庚辰
四月初八日

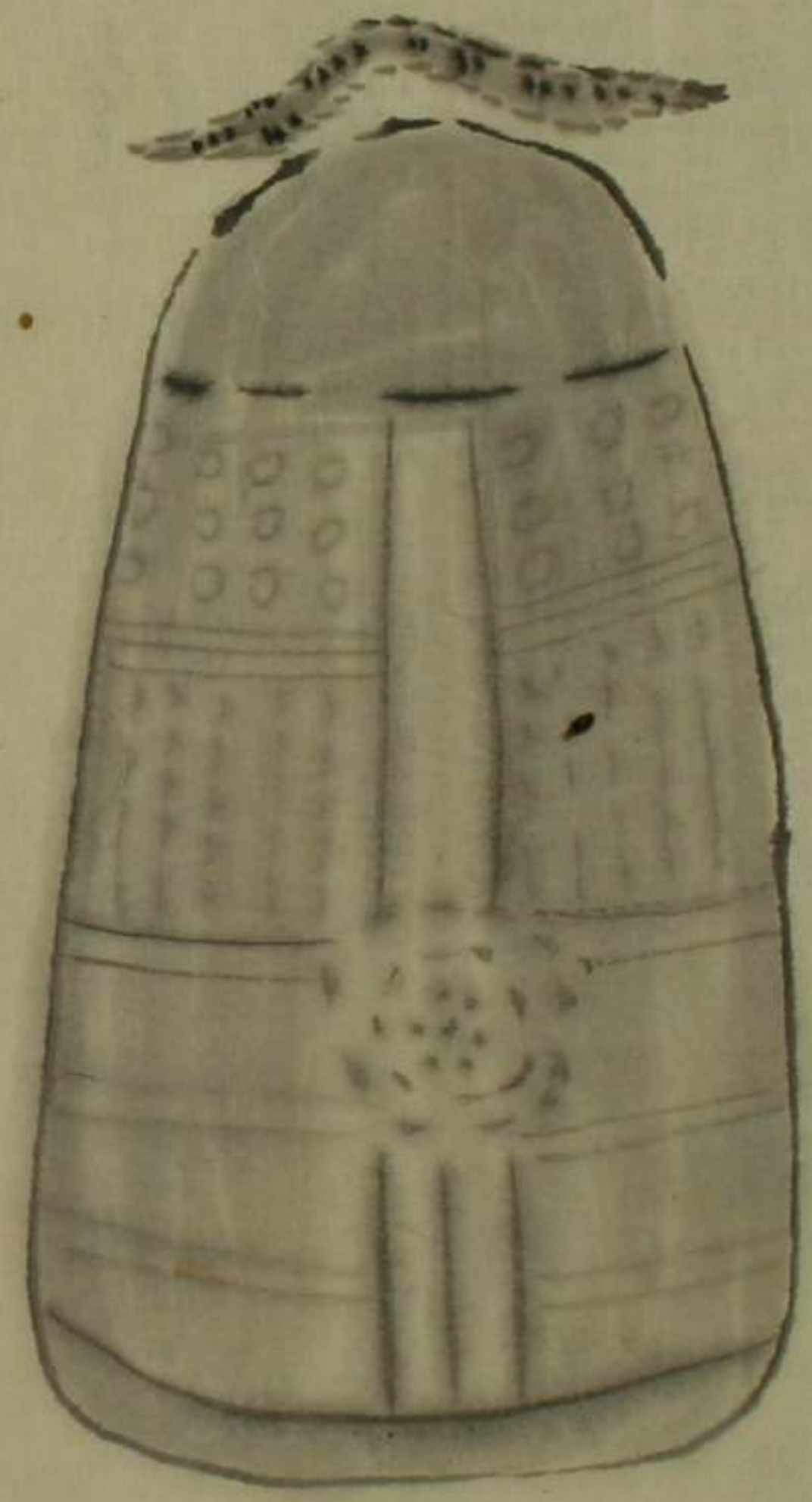
筆批三位親慶

大工平次郎行次

勸進沙門治部阿闍梨快賢

曆應三年、今年、寛政六年と凡四而止
余の志は後より由りかゝ破てあるを
一に地より此より其の他のものに猶も
禱の故も國のもの細なる龍氏の如き所へ行
くは深き仏法にて長く安んずるべき事
泉福寺真福寺西院の鐘とし彫刻してあり

長凡五尺
廿五寸
二尺二寸



同村

万吉山松月院曹洞派乃禪林本尊釈迦佛
 内常平四時石境内其方五寸許淺形より此
 寺也此佛つゝ多末氏建立といへる内松月院殿
 南別玄參大禪門千葉介貞秀永正三庚寅年
 六月十日也記す古來よりありて建つてありて
 古くは此鐘二つあり貞秀より此の鐘なりと
 住僧より傳へて詳なり此林寺より文明の年号

ち古墳しあやうくち此寺院いふくあ
 開山墨榮和るくくをくあ僧を
 夫くくあ急進人

同村

開山山と云伊栲所そと山とあはれ行部
 のふく墨榮くそく北東のく此院もそ
 龍波山遠くくそ所とあはれ山く
 いりくく半沢院くく日とあはれそく

常外
 龍波山遠
 ころ

上無塚村より江戸へ
 四里舟路八十二里
 ト之未詳



開山

開山山と云
 墨榮くく
 伊栲所
 一ト云
 此院もそ
 百姓くく
 良村くく

平氏の^家大軍國本武者は勇れに勝ちて
我々敗れしむる今の世は風俗の
かゝるやいふに思ふれり
まゝ村に家系稀なり海邊に安んずる
る一ぬれやに戸ありいふ事
て吾等客なりとてや解

下板橋驛

中山道筋に戸ありて驛場なりと云ふは
諸侯と神と東海及び川に所居
多しそ家々の隙をけしを住まざる故に
いふ所人絶へるなり
偶家と云ふは事なり此に近き氏の
下屋ありて大樹の横側なり此に廢し
てとして板橋驛といふのはいふ

録きり極と稱して姦入姦入の人々忌嫌
ていふのトとは通じせしめて不ふまふり
及も世をいふ世は可しひとさふくた
のりともや本の枝も幾つともあはれ
にうへとも持てふ事とて節とて一の
邪とともる 雲ふれしきりとのりなりの
たり怪ふともいふき極とてた

傍人の曰ふ人々をいふ及へて

のりともや極きり極と切指とて
録きり道録きり坂とて稱といふ
と通じて通じせしめて不僕とて
とて言と感とてさふ

同村

龍光寺智泉寺淨土宗とてあつた所は
いふも見え少の用是なり水もあつた
不下後さきやの稲とて稱も小や

住僧より此とありに或る云南河下向の
時より此と経じ稲荷と云或る云南河
下向より一、小田原河のほとり天正年中此
事あり云云是は或る稲荷と稱するに
亦下向をいづると凡下の時の名と付け
かせ稲荷の字なる一

中庵村

清水茶師といふ名なき茶師仏を奉じ
聖王山大本寺と稱は從來の傍に碑石を
て路に聖王といふ住僧と記せり此を
峠下といふ此河所よりいふを清水
茶師といふや一やねえ一

志村

古くは志村の村と云傳はし所と伝ふ

再建立此社々他小神宮に御子氏一ツ
 古民面ニッ室叔と稱に此乃一應
 何れ由来也

棉竹村

自得山輝勝寺曹洞派の禅宗
 聖賢静勝ハ
 左隣の号也



一、ちうと一、のほほや、枕を、年号の
 一、と何人の夢、いふ、知、世に



此所、洞有楓木
 根、うろし、テ、固、如シ

同村

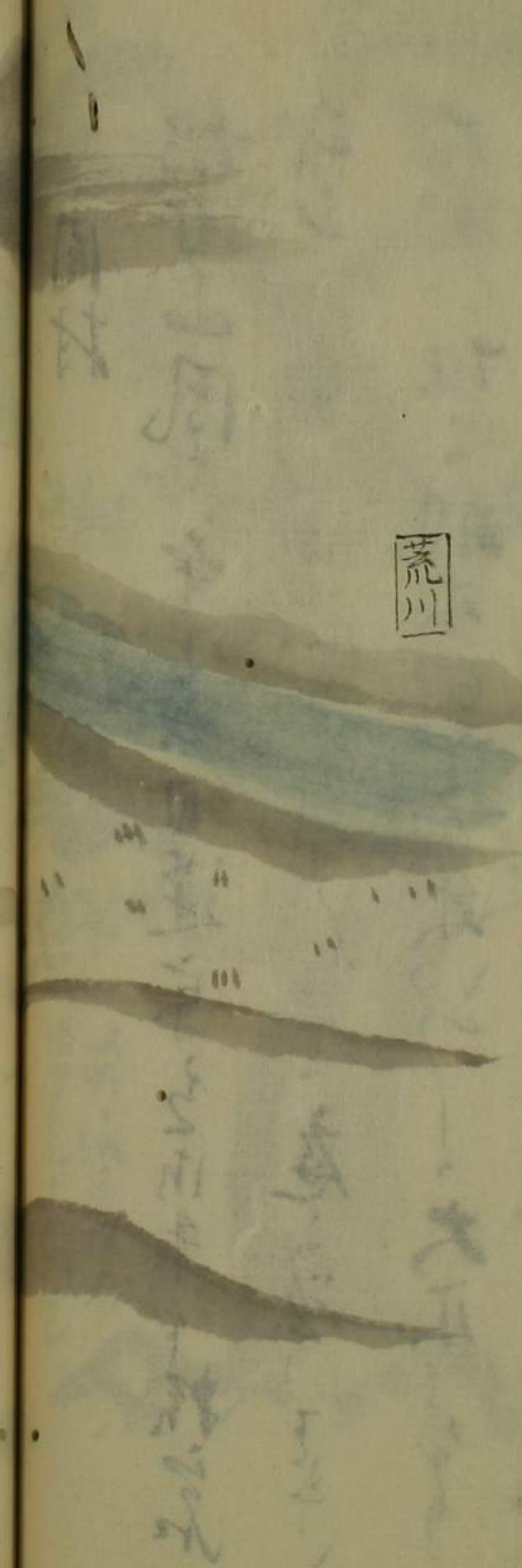
稲竹、山、風、の、寺、と、云、日、達、宗、を、所、朱、や、松、名、
 沙、斗、室、也、由、松、い、わ、さ、れ、と、庭、の、ま、き、
 大、樹、の、松、の、楓、木、の、や、う、ま、い、つ、大、木、と、り、
 ち、り、一、木、と、り、三、木、は、風、信、と、也、
 稀、う、り、あ、ま、り、う、り、信、満、別、地、り、と、名、木、と、
 稀、せ、り、松、樹、楓、木、と、松、一、と、せ、り、に、り、松、
 吳、木、と、り、り、り、細、と、り、辺、部、と、り、世、人、と、り

知長所よりわい名木の名をうりて

十條村

江里山西音寺と云ふ此の小院を是より
東方の眺をむてより凡國のより

荒川



常州航渡山
西音寺ヨリ
丑寅ノ間ニ
尺ハ三曲通
二十四里ト云

日光山西音寺
亥子ノ間途ニ
尺ハ三十三里ト云



圖せらるる菅野芝地の廣大なる斗然に以
 彩田を以てせし凡そ余石もあはれ菅野を以て
 土人稱せられし今ハ阪下には鶴岡とて薩
 年と云ふ所此名を以て九池と稱せり昔時
 の川筋のよ曲く長四百余尺横は三四尺
 あり七八尺程の面もありありなる雑穀
 穀種も多し三井戸ありたし人々も
 ちり井戸はきりりわきりり牧草のりな



ともや門上か浦何——と確執ののち来りて
 上浦丸島乃の女に離別せんは素き悲
 しく或は思ひて荒川河間
 間より来て流し才女投して随死は是は
 知るものなりかの素懐とせしは同
 じうけ懐きと知りてうねりて写ておち
 悲のくるかに何のうんやと記てみよ
 か浦の素き女は是より月ていはいせん
 と語るときはうんやと懐きとせしは同
 じうけ懐きと知りてうねりて写ておち
 悲のくるかに何のうんやと記てみよ
 か浦の素き女は是より月ていはいせん
 と語るときはうんやと懐きとせしは同

せりたきつけしに越へば
 紀別を新
 山より及ひ照る権記も
 訪ふそつ女の菩提を
 祈ふ権記の御文や
 ありん山中におわく
 一の果木とわたり
 かくれも遠くの中
 かくれいんともう
 かくれいんを海へ入
 こひ祈うく権記の
 應答するけ大本
 武別典を賜郡
 豊臨のやう
 願をせん
 公の思ふやうに
 教のりて
 いふ今の態
 北本と祈せり
 西へ流し来りて
 ろかへえとは
 江門里人
 怪しくおひき
 吟味せしに
 彼本の光り
 人々へ靈本なる
 事を知りて
 是の如く
 のやうに
 送る所
 にも
 其基菩薩
 南無佛の
 尊故に
 け僧を
 托
 きて
 るれ
 祈を
 託し
 仏
 祈
 願
 刻
 々
 一
 施
 を
 託
 して
 其
 基
 も
 佛
 佛
 せ
 る
 所
 六
 祈
 の
 河
 海
 陀
 め
 ま
 本
 と
 伴
 う
 の
 以
 て
 彼
 人
 の
 追
 告

供養ありしものと云ふ今と云ふに河内院と称
し古跡ありしと云ふ一處を豊後村と云ふ
二處に浪田村と云ふ西へあると云ふ田陽村と云ふ
下若くは豊後井戸村に云ふのやと云ふに
つらてあると云ふ一處に云ふと云ふ人の傳え
かとの地なりと云ふゆゑの地(遷移)
阿波陀佛と云ふ

い物作ははねのち佐賀碑と云ふ物なり
按て豊後村に云ふは浪田村の爲と云ふ
しやと云ふと云ふは浪田村の爲と云ふ
文へて物作ははね時代と云ふと云ふと云ふ
右の豊後村と云ふは二人のやと云ふ
ち人の傳へては浪田村の爲と云ふ
と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
浪田村と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
凡ちと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

とくさうしつち船くさく灰のちくさう
ゆがーほき風うさうーと通ひもさう
かーと敷のしたちうーと実のちくさう
畑をちくさうと民家のちくさうと
人物をちくさうと太く玉のちくさう
ほさうとさうとさうとさうと
ちくさうと海濱玉川とさうと村屋便利と
畑をちくさうとさうとさうとさうと
さうとさうとさうとさうとさうと
かーとさうとさうとさうとさうと
さうとさうとさうとさうとさうと

玉郡の平地荏苒郡にのちうさうと
府中辺のちくさうとさうとさうと
むさうとさうとさうとさうと
村のちくさうとさうとさうとさうと
ちくさうとさうとさうとさうと

百鬼の位見苦しくして己のお前の
くかきや難儀人から此やにんき
しりきり武うし此新田の廣大なりゆき
地面多敷く人家も多しけし多し雜樹林
うらけき良材を多し田舎の初荒れ
なりし多し人の来て住たりきに負も
化の通ひもきき多し彈のしめ
りや今もい百鬼のまをきききき
不潔の氏家古田訓なりき多しきき
陰事もたりきき地も肥ふき村も
へきき地を平均して右の二村より
みまはたきき地も肥ふき村も
けしき人お言渡りき別る日光
御成道より荒川海の村も田方
敷多しき地質上玉のほききき
実の化玉にあらた中もききき村

邦名村豊浦村なり上り中園筋の
ちとかいかに此等本村立入る玉に
凡そく僕中おにるに極めに紅花
文を豊浦にもく作しと小錦なり
作らるれ上り中筋のちと生れ
ち此なり在る邦玉にのちと豊浦
ちよあひしとく豊浦邦のちと豊浦
に列して一と一と一と一と一と
あつち大玉にありと一と一と一と一と一と
斗へるに僕にきこのちと智あつちと
るる邦のちと多るれ

右二巻豊浦郡一郡之内四分之地ヲ記ス

武藏国豊浦郡之記下終

武藏國多磨郡之記

古松軒草稿

武藏國凡土記

多磨郡或玉

浦三岡_ニ所_ニ河_ニ流_ニ川_ニ三_ニ流_ニ池_ニ止_ニ沢_ニ九_ニ

宮社_ニ土_ニ所_ニ寺_ニ六_ニ寺_ニ墳_ニ後_ニ四_ニ基_ニ堤_ニ三_ニ所_ニ

東限草窪岡西限金川南限卒田浦北限向岡

小川御柏江御雨布田雨布田川

多磨川

小野神社

大麻止乃智天神

穴澤天神

荒柏神社

多磨大聖子此下虫食

大輪寺

和名類聚鈔

武藏國多磨郡

小川

平加波

川口

加波人知

小楊

平也木

小野

平乃

新田

平布多

小島

平之萬

海田

安萬多

石津

伊之都

柏江

古乃江

輓多

い二書と信長海子古書なりといふも今

之地名なりなるけくすいすに風を記

浦あり巨く玉郡けりりて知るなり

入海もあかりなり



玉川



布田里

古くは廣大寺と
なりぬ元祖
とあり

あけりし
今もいふ

山を
月の入る

むすのち
有秋+



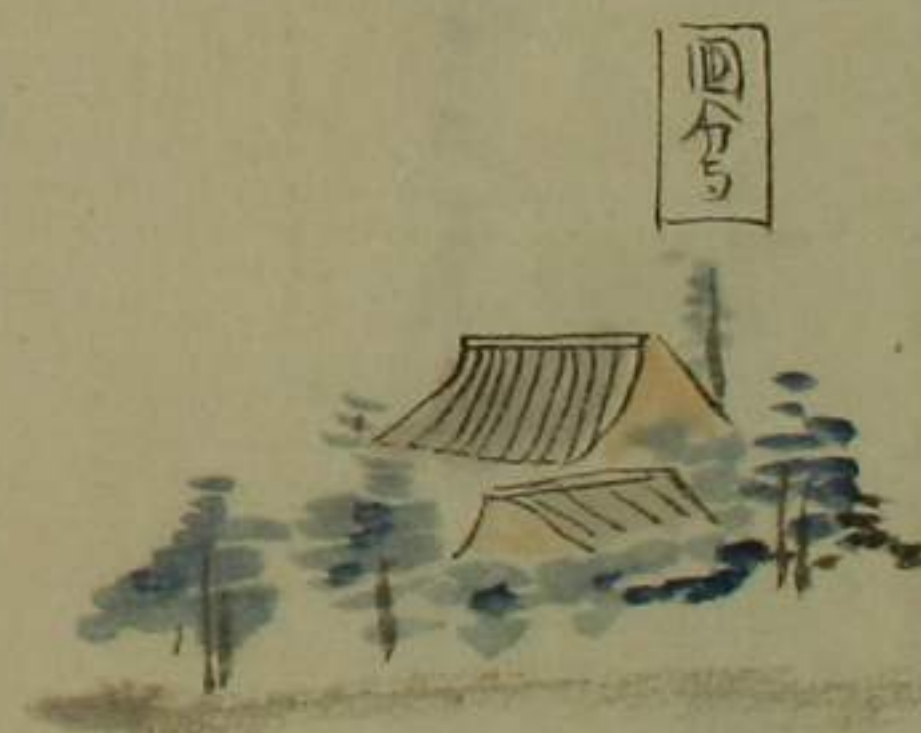
府中

井

むすのち
あけりし
あけりし
あけりし

古武蔵

平



圓分

武藏國多磨郡之筆記

花多見村

永却止草村院慶元寺と号せる淨土宗此
寺なり開山真言上人の如傳ふ花多見村
と云ひ人の建立する所朱子捨石叢の門
に美別旧館此地とてかゝる高きなり
西面は花多見村と云ふ花多見村なり
此泉州郷の寺なりと云ふなり

五才のく海を

常憲院様御側御用へしとて権門より

いづれもや罪せらるゝ御列第右に候も

松平侯様御側御用へしとて御列第右に候も

事へえ御列第右に候も御列第右に候も

毛よりく石河原へは御列第右に候も

事へえ御列第右に候も御列第右に候も

御列第右に候も御列第右に候も

御列第右に候も御列第右に候も

御列第右に候も御列第右に候も

御列第右に候も御列第右に候も

御列第右に候も御列第右に候も

御列第右に候も御列第右に候も

御列第右に候も御列第右に候も

御列第右に候も御列第右に候も

御列第右に候も御列第右に候も

墳も穿て尺に化かし

同村

普令山華藏院標名寺と云 天智末此寺院を
以朱布括名御斗外、名此澤地を傍る氷川
明神の社を大同年中に建立しと云ふ事あるを
云傳ありて從うる付に概れあるに依りて
け村に地深伊太とて此地を喰ふといは
りる事ある百餘にけ迎の人の事記多
草中へ入りし伊太とてを唱て金に毒蛇
を置けと云ふ事伊太とてを説きけを
此と略く信せる伊太なり守とおせりて
蛇の尻に三里と云ふ事ありけにあらる
事ありと云ふ事あり

和泉村

吾れ山泉流るるに、いづれ潭を築き、名を
良辨僧と云ふ事ある年の間、いづれ古に

泉



甲魁アキ——そふ島の
都ツ——みえりんそ
敷シ——みえりんそ
解カ——みえりんそ
解カ——みえりんそ
解カ——みえりんそ
解カ——みえりんそ

さていふに石巻氏の食地とて山先祖石巻
十巻十巻何——君れ肥而諸君へ軍隘——あ
か陳わ——る縁と林氏の文章——ていふ
手細の記わ——見い天草記に記せ——といふ
は——にふり家——うき流住僧の曰天弟四郎
時貞秘物——るき力い——てや十巻十巻あ
はに海——とあ城の持——とていふ
納め金——と今に石巻少氏先祖の武切

ついであつて——長刀なりて達磨大師の
画像に引いて今、石苔家、法郎と云ひ此
古本も魚も是も法郎の物、又宗の物に
是よりそ、石苔氏、折物、と云ふ、油、ら、ま
——と、ま、う、ん、の、秘、入、佛、ハ、セ、ス、ウ、リ、ン、
種、世、流、り、一、天、草、も、お、く、石、苔、氏、は、傳、へ、あ、り、て
ゆ、り、ま、う、ん、の、ゆ、じ、高、麗、の、家、に、故、ま、せ、
ス、ウ、リ、ン、と、お、く、ゆ、ら、う、ん、——他、お、の、國、も、今、は、な、
繪、也、と、稱、へ、年、も、幾、度、や、ん、セ、ン、ス、ウ、リ、ン、の
画像、と、云、ひ、ま、う、ん、の、と、う、く、兎、角、傳、へ、い、て
——何、れ、も、略、し、ゆ、ら、う、ん、の、
同

堀の形、油、も、——右、邊、に、い、る、う、ち、人、々、
の、制、度、も、ま、う、ん、と、室、は、傳、へ、い、て、ゆ、ら、う、ん、の、
臺、と、云、ひ、ま、う、ん、は、傳、何、れ、も、凡、傳、と、云、ひ、ま、う、ん、
村、人、に、傳、へ、い、て、何、れ、も、い、つ、ぬ、く、と、云、ひ、ま、う、ん、

府中

此處に付此所は江を遙くして地面より
色と粗上方中々に似て其敷のちちりたり
府と云ふもむろ六所明神ありこの文
して此世を知る事も景天元年大己貴
尊伊弉諾のちちり尊高尊瓊々杵尊天宮
貴命布留大神を代つ所の明神と稱し康平
年中源氏公義家公奥州國任常任此處の
明神に川系傳ありて主田に附ありし
縁記ありて云く此朝云此の海もちちりも長く
安んずる此處を神社の縁記と云ふに似ても
今年と云ふはちちりも此處を代つ事一ふも
此處も誰と云ふ人の分此處も古記の縁
まうせに書かざるのちちり信一りけり
おろとも縁記ありて御田村といふ人々對面
して此處地或は古に古記の縁記あり

表のりも智して地女菩薩のおそい河沙陀
 如来と法をせしむ此世を建立す夫よりいふに救
 而年もかりしうらまふもつる世のうしを
 けり往來せし人も地へ流し僻地なりてふれ
 をそしめたるけし流しにのきあぬま
 佛よりて此世の事なり事なり地なり
 といふに府中此の地なり海真の
 ありしものなりや町陽へ持てて又と
 捨てしは社僧のいふに河沙陀信心の僧なり
 今此世を建立て安んずるに再び人も
 集むるも世にいておびるものなり
 肩の流しなりその石佛及文字定なり
 今世にもありにわりの文字をて建長の二字
 燈明と勝もこれに流しをいふなり
 又今よりいふに流しに安んずるに
 今の世に僕いふに石佛なりこれに彫刻ありて

主のけは湯井流の文字うつて
 うる氣遣せる風雅人を是に名籍に
 掲げしとそそふとある古物
 のうそはかのの流伝する人の
 流れてかくとて長あたるま
 流るる一箇の流伝なる
 世の中は人の世といふ
 しかるをけりしとある一箇の流伝



東鑑治承六年八月十日武藏國所明神人
葛西之席と遷すといふも是れとて
古社社といふ

府中

叡光山安養寺と云天台宗の寺といふ
拾遺石人皇九十一代永仁年中寺海上人此
開基と云宝物例の焼亡なり

同前

本賞山妙光院と如寺と云新撰の寺といふ
此寺中拾遺石人皇九十一代永仁年中寺海上人此
寺といふ寺の府中と云此寺の寺院と云
ある中といふと云七條の製所と云
東照権現様といふの寺といふ
権現様といふの寺といふ
一寺といふの寺といふ
焼失なりといふ

大猷院様うせ給ひ画紙あるなり一紙をて
きて長の手紙一幅をあたひてせ女の面を
思ひくもて又のりて給ひ

右に住持のものなり

磬一つも是にありのふりては雑物なり
てふにききより此等なりて雑物のなり

磬とてけしきありて中々ありては

けしきありては多なり何れも何れも何れも

住持の地所なりとて清和天皇は此中高田皇子

此中建立用山並海傍なりとあり

同所

悲願山南麓清光寺とて天台此佛院と

此中住持なりとて余も何れ此院の住持と

きき人の手にて現るなりとて申はりて

此に此院なりとて此地に依田守綱と稱せ

邪道に及ぶ事ぞ博識の人を準へ依る此貌
 是より却て夫よりして諸侯まんとし人々いつ
 富饒此よりなりけり守を再興し穀多の田畑
 所せしにたりてはあきなりて寺院なりと
 云ぬけり守を博識若くは老教多し佛を邪
 とす令て出で地を月をれする國ありさ
 ありありの月を照らすに人々此を何といふ
 ありやと尋ねに表題なりされ候得と
 重徳を手にたふ成経よりしりやと云へ
 是れ佛書なるなりと云へ此は説く廣きものなり
 何やと云ふ令て佛經と云へ書なるなり
 何と云ふ高きなりと云へ事なりと云へ
 是れなるなりと云へ面白なり
 伊織曰くこの里にあきなり時準之を云へせ
 是れ此の所なりと云へ是れ田侯曲意ありのなり
 云掛此なりと云へ

神奈川橋よりみゆる

乃のうきふらりう咽めをさるるの神
ふやきふ

住持のゆつり長く略

同所

龍山高安禪寺等持院古くより此寺あり

依りて東御田宅北の之傳く境内に高御田河

と稱する小社なりと云ふ傳りき武藏村

辨慶といひ訓ありと住持せしより辨慶

井と稱し石井と辨慶橋といふを故に

と云ふも武藏村といひにふりて

いつやと辨慶といふ住持といふも

後僧に地内より辨慶といふ所を大膳若

と云ふ一生仙といひ元文七八年とある

高安に付ゆりて管保村の安あり

夫よりて返され今、吾等村安寺に坐す
なりと物よりぬれぬと云ふや 祥り
是より後、吾等寺に建立開山、心悟禪師
より、此寺に指す石の如く、これ大寺と云ふ持院に
寺民、此法を、此寺に額、其の程、安成、
寺より、寺持院と云ふや 大寺、寺、寺、
寺、寺、寺、寺、寺、寺、寺、寺、寺、寺、
の額、此寺に、寺、寺、寺、寺、寺、寺、
寺、寺、寺、寺、寺、寺、寺、

同所

諸源、此寺、寺、寺、寺、寺、寺、寺、寺、寺、寺、
作佛、寺、寺、寺、寺、寺、寺、寺、寺、寺、寺、
一、此寺、寺、寺、寺、寺、寺、寺、寺、寺、寺、
此寺、寺、寺、寺、寺、寺、寺、寺、寺、寺、寺、
寺、寺、寺、寺、寺、寺、寺、寺、寺、寺、寺、

六孫王親皇女平親王御門近代の時々に
此處ありと云ふ。

国別

明神氏西南北局に御殿ありと云ふ
ありと云ふ所は夫人の御殿と稱し今も
此處にありと云ふ分倍河ありと云ふと因幡
と云ふ府あり此處にありと云ふ川
府中明神氏御殿ありと云ふと云ふ
又まを分分梅と云ふけり光明院と
いふ小院ありと云ふと云ふと云ふ
新より近西にありと云ふと云ふ
いふも云ふと云ふと云ふと云ふ
と云ふいふと云ふと云ふと云ふ

経る
 朝の
 まさしく人むかひ
 ちりきり
 知家

玉川源甲信
 二石の山ヨリ
 武州多摩山ノ
 幽谷ヲ流レ羽
 田浦ニテ海ニ入
 凡四十里

甲別街道

府中

相州街道

胴塚

首塚

西園

分倍河原より新田義貞朝臣鎌倉郡と云ひ
 戦ひし所と云はるる人首塚順勝といふ
 合戦討死す人此塚ありしとき享保三年
 上杉朝貞玉川と云ふ所ありし所北条氏康
 向國此山沢の所に此一軍府中驛と
 合戦上杉方敗軍と云ふ軍書に記し
 此塚より里人より跡蹟を記しある
 人なりし所と云ふれりし所此所なりし
 所なりし所なりし
 向國といふ名玉川より南なりし所なり
 実証は分倍河原此所なり園村と
 云ふ所なり此所なり玉川此所なり
 して古く小山田此園と稱す園此所なり
 小山田此所なりと云ふ所なり此所なり
 此所なり此所なり
 玉川此所なり此所なり昔此人の所なり
 此所なり

いふ拾遺集あつて式云にあらうとて調布と
書し布はものよりむす。今此布田村成
布多し記しては里より布成郷といふ川の
ほとりなり。他もいふせしとをふらのいふや
布も狭し細布の類なり。あつてあつて
麻布を織りて調敷多しなり。布の
海内も細と織りて布と云ふを
人々此の布といふ。布と調敷とを
細いものなり

中河原村

道の傍に山中の事なり。古奥より下りて年
寛政六箇の事追凡四百七拾一年に
布成とあれども何人此郷をり。あつて
なり。風土もいふなり。元應年中に古奥
あり僻地なり。うゑに古奥をいふなり。

道に倭に捕まりけ墓石何處より山に石を
當せ流れて又たれう。墓石此地あり其
石を石を數百年の後も彫刻より文字の
きへうせぬ石を尋ねしもの。

本宿村

石上山盤若院跡勸修寺といふ。古表わ

銘に清戸勸修寺古山門厨堂原規能建元五年

七月十日子刻死云沙弥道能といふ。今事迄

四劫五拾五年に及ぶ。

去人の云津戸三郎勘守の子孫に傳へしといふ。

下谷保村

天満より社ありお供ふ菅家つら。此菅家

流されり。時公達教家より。きせり。子孫

の。おと。へ。なる。され。たり。に。け。所。へ。河。之。男。

道武とてし君をくし終ひて配所乃
 以て終ひてし君をくし終ひて配所乃
 きみまを終ひてし君をくし終ひて配所乃
 社殿拾石止斗此水朱中地すけ長別面寄
 長男右大臣高恒一子
 二男式部大進景行佐渡
 三男藏人景茂
 四男秀裔敦茂
 伊予
 配流三子配所三平福後藤秀母淑定後藤外子



上谷保村

梅元山松壽西院安永寺といふ天満宮此別當
寺も本尊津戸三郎菅原留守血文乃
河原陀如來法海上人の作佛ゆへ河原陀所
像中に血文并入しきまゝなりといふ佛も佛に
為ちい道武君も六代目の子孫とせ世に
あまの人の宝物と海守田院の勅額村上天皇
の御奉祀なりといふ格大ニツ義經公御慶
龜井六郎一住勝之齋右に人書寫す大盤
若狹四代甲冑茶師とい稱する傳教大師の代
佛水戸元國々清奉祀の額ありといふ世に
あまのし付物といふといふあり初より云々に
今世の寺なり天満宮の社に藏して鎮座
右の銘文甲冑茶師ハ本寺なる深大寺村の
深大寺へ移けられたといふことありて是を
古佛といふは名に其物なりと云ふことあり

のちのち一石の宝物にこそは物なり
せしむるなり

同村

大石城地といふなり一て高きなり
而してはお供ふ半親王の門をせり
平家自盛れきたりし所なり
又ハ菅原氏君
旧館地といふなり是なるの地なり

同村

道武君薨りて後一増故よりて天満の
所はハ勅使の所のなり
臨館の地なり
後といふなり是ハ君王の地なり

多磨郡芝記下

古松軒草稿

芝崎村

玄武山

舊名

菩薩寺といふ禪寺開山大定禪師

旧名不詳拾石旧地也云々多摩川富士山と近

く候又山嶽といふ所も此の山なりと云ふ

うぬ寺といふて家物といふ地也といふ

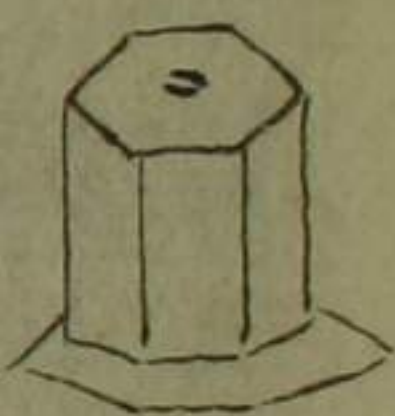
に例は候といふ一と云ふ云々



文庫部
玄武山善海寺

夢國文書
南畝美言
子要

江戸も古くは美なり



かぶさるゝ六角

高井凡六の書案の方に四犬此像と二王此像と并

彫刻しきうしき宝とときしきり佛神の像を

和画のうへに唐画を写して石の彫刻せし

ものゝ銘は施財する延文六年丑七月六日彫刻

通高ともう延文六年に今年寛政の寅年

四百三拾五年にわると將軍義隆公の時辰建

美より書しきりか上り方箱中圓物と云ふ

増資と云ふ箱といふ名なり人共美なりといふ

並に付地延部と云ふ人とも美なりと云ふ

せしと云ふと云ふけり至徳年中此美なり

又へといふ石指に云ふなりと云ふ病は

地とも美なりと云ふの云い地は三川の川

より美なりと云ふ人の云い地は三川の川

よりか一城の地と云ふと云ふと云ふと云ふ

流し地と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

下を富士重忠にむせしめし一押君自殺して
 死す。是より後、其人假城府を移さうとて
 年姤より先衛へ送致しられ風雨より他松色
 河原池取らるる草ぬきの河原池きり重忠の使
 領満善院の爲。府中にいふところ河原池を安五
 郎川地といひていかにあきなり実跡とありしか
 てむ。もと之が懐古して松林多樹になくは量
 山道城ちかき事記のまゝに。このころから
 少きゆゑに。うやむやな世に流れて。今
 今に之を漸く僻地なり。



たゞ、善徳の地、古きと云ふも、
いふも、事んか、人、お、地、中、り、
事、り、り、り、
わ、り、り、り、
り、り、り、り、

四分寺村

八斗、お、り、り、
帝、勅、願、り、
仁、美、お、り、
い、通、り、
ま、お、り、
迎、お、り、
小、所、お、り、
い、病、思、り、

むしからぬ所なき事なりになりしは
真如池を移し初りし事なり住僧は其都
切なり其家に祀りし事なり子音たし
むしからぬ所なき事なり

は村ありて其家なり古民多し是は
みきにありのものは僕九列へ移し時都尉
楊の古民多しに其家なり布目ありて

千年の物なり其家の土俗の云にけし民多し
佛の心あり其家なり佛の心あり其家なり

一つて其家なり其家なり其家なり

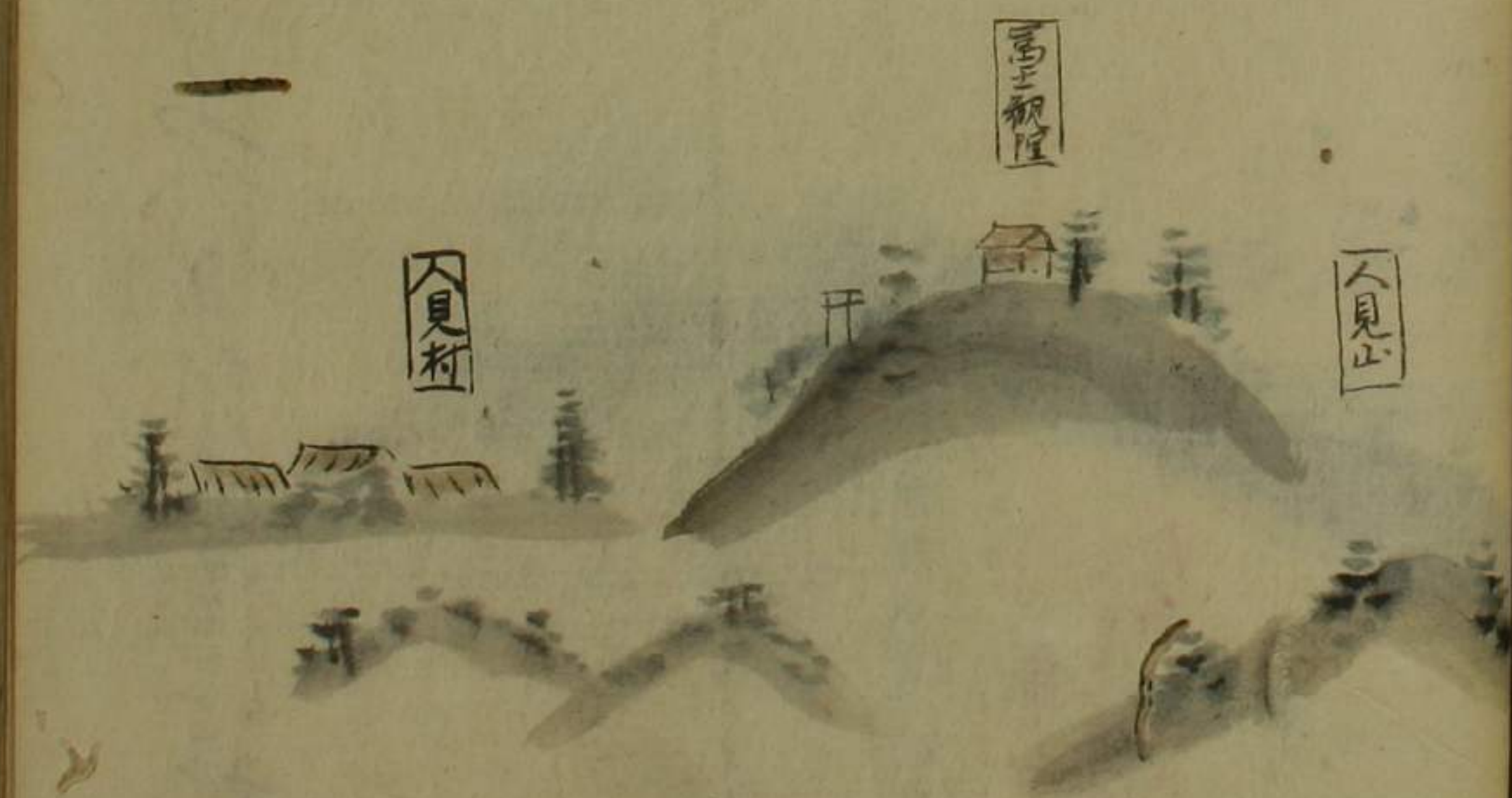
のいふ所にありて其家なり其家なり
とせし事なり其家なり其家なり其家なり
義貞の朝に其家なり其家なり其家なり
其家なり其家なり其家なり其家なり
其家なり其家なり其家なり其家なり
其家なり其家なり其家なり其家なり

同村

[illegible]

人見村

法村の巡り敷里に及び山と稱をいふ所
 ありかしき山とて近うて見るに
 一お沈みのまゝなりとて
 村に人見村にあり初山とて
 一山とて人見村にあり初山とて
 一山とて人見村にあり初山とて
 一山とて人見村にあり初山とて



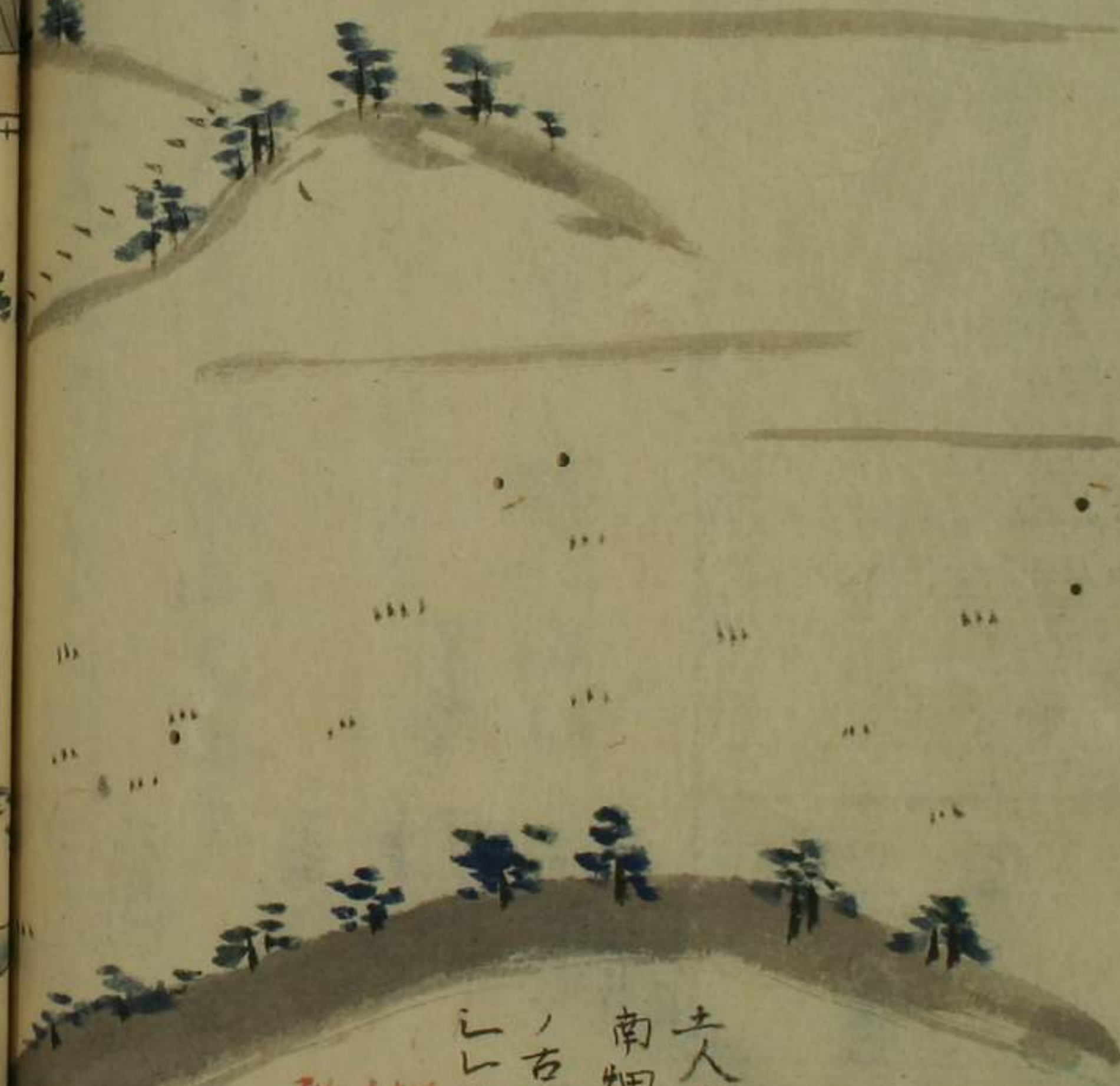
上方中國筋と邊以平此廣大なりといはれ大町とて稱
 園し

多摩郡
 深大寺村

浮岳山宮樂院
 深大寺町園

此村より一里画スル
 所山ノ如クミヘ
 テ山ニハアラス
 ニラ山ノ産シ

北



土人城山ト稱ス昔時
 南畑澤正ト云シ人
 ノ古城ト云時代
 シレス
 湯ノ原ノ名最
 ノ老トシテ多
 摩郡ノ名也

尚寺ハ關東とも北と稱「天平五年滿功
上人の開基云々」ハ法相宗此寺云々
西武帝廢帝年成帝法和帝の勅願云々
法和寺の所守山門西塔此開祖惠亮和尚勅
云々尚寺と稱ハ本尊宝冠阿彌陀如来惠心の
化云々寺名五張石

東照権現様の御時代守護不入
御利物項戴と云々

本堂は西北の隅にあり不動明王影向池と稱し
惠亮尚書の勝地を求む時此に慮及ぶ向は
不動の利劔と授ふに南山の丘云々
是を今劔立石といふ此の地は深田大寺
云々天平勝宝年中の造立を満功上人の化
云々御にハ幡文ハ劔大権現

東照大権現様の御社あり

法皇の社のほな法皇を法皇大王と稱向此

地泉の中に新向石と稱するに池の中に辨天
毘沙門吉祥天此の社と云

板付堂ハ各厚村天満の別当寺安楽寺の本
寺あるにうて安楽寺の付わくは寺と云
中にも義經公并家臣武藏河津等の河津之席
亀井之席 右四人の書寫あり 法華經の文
四巻あり一巻のの自筆あり 寺の寺あり
此の一巻より時代紙にてあると云く一巻は

書跡のかうして何處とわくぬと云く
なるなり 義經公の書跡より伝へ
傳ふなり 義經公の書跡より伝へ
中にも武勇智謀と云く遠くあるもの
あり 寺にも義經公の書跡あり 人の能
くし家と云くはいつひにいつひに又
寺戸之席 為宗甲冑の書跡あり 方々
しうけ厨多しうけに書跡公并十二神乃

小仏とあまきり 本佛は像を 阿耨多羅
三藐三菩提を 佛とて 細密なるの 目と顔は
細くなり 古板とて（ゆゑ）

同村

土人多段の天神と称せらるは 神奈川
寺より 湯澤の神社と云ふなりと云ふ
ちきに記せし 堀江の里と云ふに 寺の
事なりと云詳し

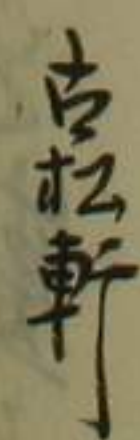
深大寺村より北のこむろ 新田の地へ
通れせしに 深大寺の 寺域は 一
こころ 寺の如き 深大寺の 寺域は 二十丁と云ふ
地とのこむろの 寺に 深大寺の 寺域は
寺の寺の 寺の寺の 寺の寺の 寺の寺の
寺の寺の 寺の寺の 寺の寺の 寺の寺の

案内の方なりてきぬ所もなきぬるに
ありしは

権田新田園地新田を水よ水流るるをた
大樹の根幹を土人けあふさるるを根
いふ所ありてきぬるありては江戸
きぬるありてきぬるありては江戸
却れぬ所によりて田舎をけははるる
近所の人よりいふにちとくもぬる
されども己の生活より時分をきぬる
きぬるははるるありては江戸の
ありしは

権田新田

江戸のあり
権田新田
江戸のあり
江戸のあり



榮

いよいよ、此よりの流までと急流を凡そ
丹戸村迄、寛き川に流すのつゝありといふ考へ
おもたば、此よりの流より、左新田までの屯のさ
らにひるむる低なる一丈人の玄米村に止まつち
の地の丸まんたる下町として同じくさして古人の種り
しといひぬ。僕も考へたりく、是れ少々の低よ
わらん。け位の寛する流なると一人のうらまは一方の
あらわれ、七里も急流としてあはれに候。

筆例に違せし人、筆のさむさうの事あり
かたし、さういふ事あるにあつたれば、是
れも、さういふ人、さういふ人、僕
筆法は、さういふ事は、いふと、いふ事に
記しう

新田訓と廣大といふ、風、さういふ、百姓と
いふ、一、及び、貢、何、何、上、納、さる、さる、に
一、町、さういふ、凡、金、を、分、さる、貢、納、さる、さる、に
お、納、さる、い、い、さる、新、田、場、を、立、敷、の、せ、し
さる、さる、い、い、さる、さる、さる、貢、納、と
い、い、さる、松、松、雑、樹、の、さる、い、い、さる、
さる、さる、さる、さる、納、納、納、さる、い、い、さる、
さる、さる、い、い、人、家、を、さる、山、を、さる、さる、さる、
の、場、さる、お、お、さる、さる、い、い、土地、の、廣、大、と
樹、を、何、さる、切、さる、さる、い、い、さる、川、端

何しと云ひし御代に経済も達し地の
利もあつたに云々——
開墾——民がたふ土地もあつたん
わろ——そいふの種ものもたふせ
姓へつた——その事なりされども
とや道々なる處所とてたふ牛馬
氏西風の勢いなりと梅の節の
焼もとゆ——我々馬の飼養
目へは馬もあつたに云々
あつたに云々——
地のもつたに云々——
奥羽州の地におつたに云々——
ちひは僕が云の土地もあつたに云々——
知れぬと云ふに云々——
村々もあつたに云々——
と新田のちうへに云々——

いふのさういふさういふ新くむの
多岐の形勢さういふさういふわさういふ
いふさういふさういふさういふさういふ
さういふに實際定まるさういふさういふ

さういふさういふ

さういふのれ草葉さういふさういふ

さういふさういふさういふさういふ

さういふさういふさういふさういふさういふ

さういふさういふさういふさういふさういふ

さういふさういふさういふさういふさういふ

さういふさういふさういふさういふさういふ

さういふ

さういふさういふさういふさういふさういふ

さういふさういふさういふさういふさういふ

さういふさういふさういふさういふさういふ

さういふさういふさういふさういふさういふ

ふけもあつたをいふ。

震新田 蓮花新田 吉徳寺

蓮花所
台祥
多所
火除
の
を
掃
除
す

時、替地として与へられ、新田所領に

町の名を以て比喩せしむ

千里東と
江戸東と
と
と

中
 之
 切
 玉
 の
 ひ
 一
 古
 新

あふらけぬむすのち

休閑村

い村の風流の多し鼠柏の神社あり

高麗に古書を朱筆にありて其の如く小紙に書人

ふ紫白錦に百代の隙々時節のふりて

いり候に、いふくも、
ふれのことなり

凡土記鹿柏神社在田七十一之東新祭大歲
御祖神也崇峻天皇二年己酉八月始祭事
有之至て古比神社といふ一清和天皇に
御宇武藏の國田藏家に住むべし

虎柳山祇園寺と云ふ田由諸やおんゝあり

一に住僧の曰何の由循常なるを以て
 尋てはふ所くも是の由りぬけずと由
 尋てはふ所くも是の由りぬけずと由
 尋てはふ所くも是の由りぬけずと由



深大寺村

丁卯年
小春月
乙卯日

上仙川村

泉一ヶ所あり三間余八間水外底一處に松ヶ村
の用ありとあり

應仁年中北古夢あり古地といふ一細川
勝元山名宗仙權邸ありといひ日本我國
なり一十年あり

付村一ヶ所上方物より他所よりあり
鳴りいふ

名の各々ばはぶしとせりけいぶしとせり
いふいふとありと二月の末外月曜より来ぬ
なる種より藤ありといひす都よりありとふ
飛い鳩とふにて色い龍をいへ尾か
と一ふとありとありとありとあり

仙礼村

付村一ヶ所井之口の耕天より大既より風難の

泉より新田浦上水に湧き上り人ハ池と称せし
 とも小と云へとも湖と云ふ天の別當を明神と
 大層寺と稱し其地より江戸に流れて新田
 平泉と云ふ事ハ此辨天此か後より
 江戸と云ふ地より新田に流れて新田
 東照權現様此地より江戸と云ふ事ハ此辨天此か後より
 上意より江戸と云ふ事ハ此辨天此か後より
 江戸と云ふ地より新田に流れて新田

大御院様より江戸と云ふ事ハ此辨天此か後より
 井之口より江戸と云ふ事ハ此辨天此か後より
 申す



多摩郡
 新田
 市上水
 之系

池邊東西九ノ高岡
 南北七八ノ高岡
 南北七八ノ高岡
 見立ハ高岡ニシテ池ハ
 自然ト産リ湖ト云

北

吉祥寺
内林



吉祥寺

内林

井之頭

すし

大猷院様内やーとうーまぬびにまきり
枝葉出て今又ふやうりーまて柳のともるは
のれ建うううれまきりーまや柳
権限様内福あうう福あまのあまうーまきり
大猷院様井の頭内若成け福あ福あ家
守護をきりー福あ天の山社へ福あ斜のけ
も市より降るれも不審はまきりーて福あ

寺社々々歩み寄る所多し一室を以て
是處は縁起の所解し一実

大猷院様より一歩彫刻のききし一神本

なりと極まりしをふと別面する所傳ふ

永代の宝持し一秘藏のきき神本も今られ

すしよりして尊君と縁起のきき也人小被

さしせらるるよりしをききし一佛家の

方便せしをききし蛇のききしをききし

池の縁起除きしをききしをききし

け地は戸色よりけしをききしをききし

をききしをききしをききしをききし

落倒しをききしをききしをききし

凡そ何よりしをききしをききし

尺のゆきしをききしをききし

月のききしをききしをききし

上高井戸村

土人鎌倉橋と稱せり。其の藩倉街に
あり。和國村の八幡宮の末より
中井村へとも新田を名し上野藩領に往
来あり。と云む。甲州街道を其藩村玉川の宿
まののり之ヶ所より上野藩倉より其古
稱を地を何ともいふ。と云む。數年其
間多に時に時代により新なるといふ。近
うに鎌倉よりいふ。と云む。

田村

田島山州法守 土人鎌倉の
祖師よりいふ 田山日島上人 慶長
年中此僧と云ふ。當時に日蓮上人は本像あり
祖師平二藏のころを高井戸より日朗上人
彫刻あり。像を陰に乃祖師と云ふ。ん
と云ふ。此本像と云ふ。と云ふ。碑文昔村乃法尊と云ふ。

ありし像なりしに之は不文の純といふ事
 信一宗法と云々——御教を以て法華の既役
 諸におうるといひ懸初に改むるやあやう
 安んずる是れ我も此福佛——大恩天と
 作らば本像——今集得せるものも純
 を用懐するを金子百疋より一日のうちに成
 せしむる供り集法や——四も儀の間よ之夜ま
 開帳の夜とありしものとこれ異なる寺の結縁
 員とに——門前より東店に数多くを移す
 所か——い宗門は何らあるやとて天竺と
 んゆつものゝ趣きをも取とるけ渾作多材
 あとせん——若くは悪く敬うべし
 おもた忠臣とやいふ——あらつる——像成
 図考の中にも違ふところあるや婦人
 のさうな像と云ふものありあつた
 碑文各村より二玉傳られし祖師一本

の祀佛とす稱して大あり此二王とす

和国村

土人和田の八幡と稱し此辺の旧跡なり
 此社所由年々之祭を別面と稱し山大宮守
 と云彩儀の志を守りてお侍り深敷義成公
 奥羽前九年後三年の戦いに利運ありて
 此地の所の所澤倉の邊に八幡を遷す

大宮八幡宮 沖のいり

西



古の澤倉街道と云
 今土人の用街と稱す

澤倉

一と云昔時と社僧と災ドーに上松
隆信當ふ多句のて川多入たや焼て
社室た此巻さるにや何とあて毛
八幡た此川とてわね我公義のうけ
サリとるりしものし

逆野井村 上井草村

善福寺池に移る衆より東西凡二箇中
南北凡二箇或は四十箇の所もあり下
用ありとる今ある事して足るにあり
多しお供ふは所と古し善福寺と
寺院よりし事より今も是れなり
池は称号とせしとる

同村

とて小なる八幡の社と別あり山伏

林光坊城面切と云ふ事なり云々
山伏の別あり。社等々四地より由縁
あるものなり。極多之山仰ぐ事なり。一
所へ今林光坊にあり。七つあり。ひ
くくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくく

高島津村

村名或寺あり。寺に高島津と云ふ事あり
に候持る事なり。何れと云ふ事なり。名を
切河と云ふ事なり。

大猷院様殿へ。なせ候し寺のうへに。由縁
あり。寺のうへに。寺のうへに。寺のうへに。
寺のうへに。寺のうへに。寺のうへに。
寺のうへに。寺のうへに。寺のうへに。
寺のうへに。寺のうへに。寺のうへに。

玉ふわにせもあきりのなり板のどき
信一蛇の尻とふら



長サ凡八寸ちう中四寸金眼跡
うんと美しき穴あるなり

ふふとも解くるに下鰓のうづり
傳ふにこれ村井は尻の尻に童草を
て振るゝとく小蛇来るて足とくを
北の童子湯といひ蛇のうづりや切腹せり

其時山野をん動くをわに池ありあり
ふふまきかゝるうづりて草甲といひぬ
おゆり童草の腹を腐してぬにぬるあり
池ありききて一をれぬたてをふり
民家此をぬきぬる腹をぬきぬるを
住僧井の尻にぬけてまゝ秘藏にかけし
かゝる蛇いついふかゝるぬといふ
かれうゝ海老今れうゝ右の蛇

臥し創井の―蛇の池に居―蛇既と尋ね
 縁化うも童女に溺ぎりに切殺され―蛇
 尸をけり―蛇のぬめ蛇蛇といふ―
 隙―向ひけり―蛇に象が牙以鼻の皮
 多是にり目々に二ツまき―蛇也といふ
 昔時初毛船に上りて東都に航し遊る
 かしらるにりて申也村へ涉れりる名にれ
 相―りや中―に象れ困也―蛇かか―と海と
 り―蛇―象と―蛇れ大漢とて四足と蛇と
 か―蛇―蛇―蛇―蛇多の象つ―蛇は蛇と何と
 かしらるに象つ―蛇の中―蛇―蛇あると
 象のふる食物と蛇―蛇―蛇象の―蛇は蛇と
 是とて蛇と蛇と蛇といふ―蛇は蛇と蛇と
 かしらるに蛇―蛇―蛇―蛇象つ―蛇と象と
 かしらるに蛇―蛇―蛇―蛇十間家も蛇―蛇
 蛇は蛇を蛇―蛇―蛇―蛇と蛇―蛇―蛇

何れも鼻を毛で飛ぶ如くに入ぐちひる事
 して色づくものもさういふせんはされ病に
 うゝ象をいふより一ち千金は象つゝいふに
 けのを象は親のうゝと平生も外の象つゝい
 たらぬなりし象にいふは若くもてねりふ
 何事一何んそ象は家ゆと指てかゝる象
 けし象は例くけに象も嫌ひさぬとい
 耳とやうに食物を喰はれくゝる象なりて
 何れもいふ事なりし象もいふ事なりし象もい
 りのちに象をいふ事なりし象もいふ事なりし
 猫の中いふ事なりし象もいふ事なりし象も
 念をいふ事なりし象もいふ事なりし象も
 何れも寛保二戌年十四年目に此の象の年
 といふ事なりし象もいふ事なりし象も
 何れもいふ事なりし象もいふ事なりし象も
 何れもいふ事なりし象もいふ事なりし象も

中野村寛保元酉年十四年目に此の象の年
 といふ事なりし象もいふ事なりし象も

い村の名を知らるゝといひて——此者も
お流せ——にあふに記す。狸窟を知らる
とて一紙止り——いふ所——とて
食ふもの——人を除きて——
あつても流はるゝあら——おまゝとて
と包と——いふに解ゆ——怪しき物とて
とひ——と狸化——とて——とて
とて大——とて——とて——とて——
——に狸の化——狸とて——とて——
とて——とて——とて——とて——
の多きもの——に狸化——とて——
とて——とて——

い家とて、岡秀吉の、
仍祥々、いふ、小田原、北条、
備後、の書、いふ、年、貢、小田原、
書、いふ、と、文、も、古、雅、とて、

小代友と云号今ハ此一代友の下目と云
云今代と稱せる類也

上言田村

氷川明神乃みさし。是泉つゝ水の涌
つたけ池の名を様々稱す其の
やうに由緒をいへば一に解
の池なり昔より池也

右多摩郡之二卷ハ一郡之内三分之地ヲ記ス

多摩郡下之終



